

うたごよみ

曾於文藝

「題字」

本市文化協会会長
瀬戸口 淳 氏

俳句

末吉俳句会

生きのびし今日の飲のび稲の秋

湖城 公子

拝殿を映す水あり郁む子熟るる

瀬戸内 紀子

木下こした闇顔を寄せ合ふ道祖神どうそじん

本浦 玲子

大隅俳句会

茶の花やたとえようなく清らかに

川崎 綾子

子供服冬日に干して華となる

穎娃 晴美

神渡かみわた袴の裾を跳ね上げて

岩重 みどり

※神渡：出雲へお旅立ちになる
神々を送る風

短歌

末吉山茶花短歌会

窓の下のの夕顔咲きてすがやかに青き光の撫なづる風あり

西 昌子

ピンク色に小玉の花のおじき
草枝延びのびと数多咲きおり

福嶋 恵美子

彼岸花季節たがえず茎伸ばし
残暑に耐えて庭隅に咲く

松下 和子

大隅短歌会

亡き夫の好みし着物捨て切れず
思案のあげくまた仕舞い込む

川田 サダ子

つぎつぎとうから冥土めいどへ旅立ちぬ
この寂しさをひたすら耐える

入来 レイ子

ひとり身を儀礼のごとくうらやみて
夫の待つ家へ友帰りゆく

川辺 敦子

財部短歌会

今しがた落ちたるものか艶めける栗の
実いやに新鮮に映ゆ

富山 治雄

田を埋めて住宅街となる土地に
ブルドーザーの響き大きく

川俣 若

ブリスベン・ジャカラントの花群れ
咲きて春の光をすかし見る道

井上 澄子

健康を害すると言はれし葉たばこは
この町から消ゆ今年を最後に

児玉 次雄

漫珠沙華おまえも黒くしよげ
落ちる数日の命燃え尽さむと

祝迫 道雄

脚腰の明るき未来を信じつつ
仲間と共に筋トレ励む

杉村 リカ

ふるさととは忘れがたく強くなり
ひとりしずかに逃げ帰るなり

橋口 貞男

合唱祭出番緊張の幕裏にソプラノの
人とうなづき合えり

山城 忠

蜘蛛の巣の殊更多き年なりき
其を取り払ふ心いたき我れ

瀬戸口 芳子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

あん夢あ どれ行はつちたか
貧乏世帯

桐野 奈世

運ふの良夢 朝あさん茶柱ちやばしで 宅急便おにいもん

森山 厚番

夢ゆめん様な 話はなしひん乗のっ 裸はだけ
なっ

古川 一幹

大隅薩摩狂句会

注連しめかざい飾い御利益ごりやくか無なま塵ごみ
けなっ

神宮司 素水

飾かざい餅もち 正月しょうがつ過ぎれば
はっ割がれっ

太良木 五徳

紛まげ物もんぬ 骨董品こつどうじやつち
床とけ飾かざっ

津留 群志

美事みごとでがち 花どんかざ飾いつ花粉症
新屋 涼子